

第3学年 国語科学習指導案

平成27年11月13日(金) 第5校時

授業者 谷岡 瞳

1. 単元名

せつめいのくふうについて話し合おう
れいをあげてせつめいしよう

2. 教材名「すがたをかえる大豆」

「食べ物ひみつを教えます」

3. 指導の立場

「すがたをかえる大豆」は、身の回りにあふれている大豆やその加工食品について書かれたもので、内容的には児童にも身近なものである。ただ見ただけでは大豆からできているとは思われないものも多く、その意味では、児童に意外性をもって知ることの喜びを与える内容とも言える。特に枝豆やもやしも、大豆が形を変えたものである点におもしろさを感じる。「すがたをかえる大豆」は、大豆をおいしく食べるための工夫を5つの例で説明している典型的な解説型の文章である。わかりやすく説明するために、意図をもった具体例の提示順序や、文章だけでなく写真も提示して説明するなど、筆者の説明の工夫が随所に見られる。

児童は「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」で、「はじめ、中、終わり」の文章構成があること、「はじめ」に「問い」があり、「終わり」に「答え」があること、分かりやすい順で説明されていることを学習してきた。ここでは「はじめ」は「問い」ではなく話題提示という形になっているので、児童にとっては新しい形のものである。

「こまを楽しむ」で書いた、遊んでみたいこまについての文は、「はじめ、中、終わり」を意識して書くことができた。しかしこの文を書くことができたのは比較的短く、パターンが決まっていたためであり、作文のように長い文章を書く際には、

「はじめ、中、終わり」を意識することや、分かりやすい順で書くことはこれからの課題である。

本単元では、「食べ物へんしんブック」作りを通して、大きく2つの力を身に付けさせることを目的としている。1つ目は、中心となる文を明確にして読む力を身に付けさせることである。まず中心となる言葉を見つけてから、中心となる文を探す。中心となる文を見つける方法として、繰り返しててくる言葉、問いや題名に関係のある言葉、段落の内容をまとめている文を探すことを学習していく。2つ目は段落と段落の関係を考えながら読む力を身に付けさせることである。なぜ筆者がこの順で述べているのかを見つける際に、つなぎ言葉に注目させたい。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全13時間の単元指導計画である。第一次では、単元を貫く課題を知らせ、学習計画を立てる。第二次では、第三次の言語活動をするために、「すがたをかえる大豆」の説明文の書き方について学びとっていく。第三次では、それまでの学習を活かして、自分で「食べ物ひみつ」を伝える文章を書く活動を位置付けた。

○研究内容2に関わって

〈交流の形態〉

最初にペアで意見の交流を行う。ペアで話すことで、自分の意見に自信がない児童でも、自分の意見が認められたりすることで、全体交流の場で自信をもって意見が述べられると考える。

〈深めの発問〉

読者に分かりやすい順に書くために、つなぎ言葉が重要な役割をしていることについて考えさせる。

〈学習のまとめ〉

終末のまとめで、筆者の説明の工夫を「説明の技」としてワークシートに書きためていく。第二次の終わりには「すがたをかえる大豆」の説明の技を、班での話し合いを通してまとめる。

5. 単元指導計画

◇単元の指導目標

- ◎中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。(読イ)
- 内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読むことができる。(読エ)
- ◎目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。(書ウ)
- 「はじめ」「中」「終わり」の構成を意識し、「中」の事例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。(書イ)

単元を貫く課題

クラスの仲間に、自分が知った「すがたをかえる食品のひみつ」について分かりやすく伝えるために、食べ物へんしんブックを作ろう。

次	時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準 (評価方法)
第一 次	1	さまざまな大豆の食べ方があることに関心をもち、学習の見通しをもつことができる。	1.食品の変身前の姿を当てるクイズをする。 本文を読んで、学習の計画を立てよう。 2.大豆を使った食品にどんなものがあるか確かめる。 3.単元を貫く課題を知る。 4.課題を達成するための学習計画を立てる。		【関】大豆がさまざまな食べ方をされていることに関心をもち、学習計画を立てている。(発言)
第二 次	2	構成に着目して、文章全体を読むことができる。	1.前時の学びをふり返り、課題を確認する。 大まかな内容をとらえながら「はじめ」「中」「終わり」に分けよう。 2.全文を音読する。 3.理由を考えながら全体を3つに分ける。 4.筆者の説明の工夫についてまとめる。	④つなぎ言葉 「このように」 ⑥「はじめ」「中」「終わり」	【読】段落相互の関係を考えながら、「はじめ」「中」「終わり」に分けることができる。(発言、ワークシート)
	3	1・2段落では、話題提示がされていることに気づくことができる。	1.前時の学びをふり返り、課題を確認する。 「はじめ」の部分があらわしていることをとらえよう。 2.1・2段落を音読する。 3.大豆についての基礎知識を読み取る。 4.「隠れた問い」を考える。 5.筆者の説明の工夫についてまとめる。	⑥「はじめ」「中」「終わり」 ③段落の中心となる言葉・文	【読】「はじめ」は話題提示をしていることを理解することができる。(発言、ワークシート)
	4	3～5段落のおいしく食べる工夫と具体例を、整理することができる。	1.前時の学びをふり返り、課題を確認する。 大豆をおいしく食べる工夫を読みとろう。 2.3～5段落を音読する。 3.おいしく食べる工夫・食品例を書き出す。 4.大豆を使った食品の作り方の工程を見せる。 5.大豆をおいしく食べる工夫をまとめる。	③段落の中心となる言葉・文	【読】おいしく食べる工夫と具体例を、整理することができる。(発言、ワークシート)
	5	6～7段落のおいしく食べる工夫と具体例を、整理することができる。	1.前時の学びをふり返り、課題を確認する。 大豆をおいしく食べる工夫を読みとろう。 2.6～7段落を音読する。 3.おいしく食べる工夫・食品例を書き出す。 4.大豆を使った食品の作り方の工程を見せる。 5.大豆をおいしく食べる工夫をまとめる。	③段落の中心となる言葉・文	【読】おいしく食べる工夫と具体例を、整理することができる。(発言、ワークシート)
	6	絵や写真を使って説明する理由について気づくことができ	1.前時の学びをふり返り、課題を確認する。 「中」の筆者の説明の工夫をみつけよう。	③段落の中心となる言葉・文	【読】絵や写真を使って説明する理由を理解するこ

		る。また3～7段落を3つのまとまりに分けることができる。	2. 3～7段落を音読する。 3. 絵や写真と本文を線でつなげる 4. 絵や写真がない場合の読み手の感じ方を考える。 5. 中心となる語や文を確認する。 6. 「中」を3つのまとまりに分ける。 7. 筆者の説明の工夫についてまとめる。	⑧絵・写真・図・グラフと文をつなげる	とができる。(発言、ワークシート)
	7 本 時	「中」では、順序を表すつなぎ言葉を使って、読者にとって分かりやすい順に並べられていることが、説明の工夫であることを読み取ることができる。	1. 前時の学びをふり返し、課題を確認する。 具体例の説明の順について考えよう。 2. 3～7段落を音読する。 3. 3～7段落の順について考える。 4. 筆者の説明の工夫についてまとめる。	⑦段落どうしの関係 ④つなぎ言葉	【読】具体例の順の工夫に気付くことができる。(発言、ワークシート)
	8	例をあげると分かりやすい説明になることに気づくことができる。	1. 前時の学びをふり返し、課題を確認する。 「終わり」で示されている筆者の工夫をまとめよう。 2. 8段落を音読する。 3. 大豆の食べ方がくふうされてきた理由を考える。 4. 「このように」が示す事柄をみつける。 5. なぜ具体例を挙げたか考える。 6. 筆者の説明の工夫について書きだし話し合う。	④つなぎ言葉 「このように」 ○具体例	【読】例をあげると分かりやすい説明になることに気づくことができる。(発言、ワークシート)
第 三 次	9	自分で選んだ食材についての変化を図や表にまとめてみることができる。	1. 前時までの学びをふり返し、課題を確認する。 2. 「食べ物のひみつを教えます」を読み、説明する文章を書くまでの流れをつかむ。 自分で選んだ食材について、その変化を図や表にまとめよう。 3. 変化する食品の例を書きだす。 4. 食材の変化について図や表にまとめる。		【関】食べ物について関心をもち、調べて分かったことを3つ以上書きだすことができる。(図・表)
	10	「はじめ」「中」「終わり」に分けて、文章の組み立てを考えることができる。	1. 前時の学びをふり返し、課題を確認する。 「はじめ」「中」「終わり」に分けて、文章の組み立てを考えよう。 2. 「はじめ」「中」「終わり」には、それぞれどのようなことを書くとういかに振り返る。 3. 組み立てメモを作成する。 4. 文章を書くために使った工夫について書きだす。		【書】「はじめ」「中」「終わり」の構成について理解した組み立てメモを作成することができる。(組み立てメモ)
	11 12	文章の組み立て表をもとに、具体的な例を複数挙げて説明する文章を書くことができる。	1. 前時の学びをふり返し、課題を確認する。 組み立てメモをもとに食べ物のひみつを説明する文章を書こう。 2. 組み立てメモをもとに、下書きをする。 3. 班の仲間同士、アドバイスをしあう。 4. アドバイスをもとに、もう一度書き直し完成させる。		【書】「中」の事例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。(発言、作品)
	13	仲間の文章を読み、分かりやすく説明するために使用した工夫を見つけることができる。	1. 前時の学びをふり返し、課題を確認する。 仲間の説明文のよい所をみつけよう。 2. 班で、発表会を行う。 3. 仲間が使った説明の工夫に気づくことができる。 4. 書き方についての感想を交流する。 5. 単元の学習をふり返し、まとめをする。		【書】「はじめ」「中」「終わり」を意識し、「中」の事例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。(作品)

6. 本時の展開（7／13）

（1）本時のねらい

「中」では、順序を表すつなぎ言葉を使って、読者にとって分かりやすい順に並べられていることが、説明の工夫であることを読み取ることができる。

（2）本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ 【3分】	前時の学習内容を想起し、本時の課題をつかむことができる。	1. 前時の内容を振り返りながら、挿絵を位置付け本時の課題を確認する。 具体例の説明の順について考えよう。	・ 掲示物を見せながら前時を振り返る。
さぐる 【20分】	③～⑦段落での分かりやすい説明の工夫について読み取ることができる。	2. ③～⑦段落を音読する。 3. 【一人読み】㊸～㊹のまとまり（㊸その形のまま・㊹ちがう食品にする・㊹取り入れる時期や育て方）の順について考える。 ・ ㊸から㊹になるにつれて、だんだん文章の量が増えている。 ・ ㊸から㊹になるにつれて、作る手間がかかっている。 ・ ㊸から㊹になるにつれて、食品例は大豆がもとになっている食べ物だということを、知らない人が多かった。 ・ ㊸から㊹になるにつれて、大豆の形が分かりにくくなっている。 4. 工夫を確認する。 ・ 「順序を表すつなぎ言葉」でつないでいる。 ③いちばん分かりやすいのは→④次に→⑤また→⑥さらに→⑦これらのほかに	・ 読みのかぎ④⑦を使って学習することを知らせる。 ・ 明示された記入の仕方について、見つけられているか机間指導をしながら確認する。 ・ つなぎ言葉に目を向けさせる。 ・ 「中」の段落についての工夫が視覚的に捉えられるようにする。
深める 【12分】	「中」の部分全体での説明の工夫について、今までの読み取りをもとにして考えることができる。	5. 考えを深める。 「つぎに・また・さらに」がないとどうですか。 【ペア交流】→【全体交流】 ・ 何のことはなしているか、分かりにくい。 ・ どんどん難しい工夫になっていくのが分かりにくい。	・ 「つぎに・また・さらに」を入れないで本文を読む。
まとめる 【10分】	説明の工夫として分かったことを「順」「つなぎ言葉」という言葉を入れてまとめを書くことができる。	6. 本時のまとめを書く。 つなぎ言葉を使って、読む人がいちばん分かりやすい工夫から、難しい工夫の順になっている。 7. 一言感想で学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ キーワードを確認する。 評価規準・評価方法 【読むこと】 「中」では、「順」「つなぎ言葉」について説明されていることを工夫として捉え、まとめとしている。（ワークシート・発言）

